

令和 7 年度

運営に関する計画

【4 月計画案】

大阪市立小林小学校

令和 7 年 4 月

大阪市立小林小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 3 年度の「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より児童に寄り添い、保護者との連携を密にして教育活動に取り組んでいる。「いじめアンケート」を学期ごとに行い、認知したいじめについては、生活指導部会で共通理解を図り、いじめ防止対策委員会を開き、学校を挙げて対応することで、解消することができた。一方で、令和 3 年度の校内調査の「自分にはよいところがありますか」の項目において、否定的な回答をする児童が 3 割に及ぶなど自尊感情の向上は十分とは言えない。

体力面では、柔軟運動を普段の授業に取り入れたり、全校でストレッチ週間を設けたりするなど、課題である柔軟性の向上に取り組んできた。取り組みを継続的に実施した結果、令和 3 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女ともに全国平均を超える記録を残すことができた。学力面では、小学校学力経年調査の結果から、標準化得点において大きく向上し、目標を達成することができた。一方で、全国学力・学習状況調査において、国語と算数が共に全国平均を下回るなど、基礎学力の定着に課題がある児童が多い。

ICT の活用については、令和 3 年度より導入された教育情報利用パソコンの効果的な利用について視聴覚係を中心に模索している。本校では、5 月の分散登校期間を機に毎日端末を持ち帰るようにし、自宅でオンライン学習ができるようにした。しかし、スクールライフノートなどを全学級で取り組んでいるものの、取り組みの頻度は学年間でばらつきが見られる。今後も ICT の活用方法を探り、教職員で共通理解を深め、教職員・児童共に情報活用能力を向上させていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 82% 以上にする。

【学力経年調査 R4:80. 9% R5:80. 1% R6:81. 8%】

② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 62% 以上にする。

【学力経年調査 R3:58. 5% R4:61. 1% R5:67. 2% R6:60. 5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

① 令和7年度小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比平均を、令和3年度平均より5ポイント向上させる。

【学力経年調査 R3:0.84 R4:0.78 R5:0.87 R6:0.79】 ※0.01を1ポイントとする。

② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

【学習者用端末利用状況 R6:65.4%】

② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。

【学力経年調査 R4:80. 9% R5:80. 1% R6:82. 3%】

② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。

【学力経年調査 R4:61. 1% R5:67. 2% R6:60. 5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【学力経年調査 R6:3年0. 76 4年0. 81 5年0. 75 6年0. 84】 ※0. 01を1ポイントとする。

② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

【学力経年調査 R4:63. 7% R5:72. 1% R6:70. 4%】

【学びを支える教育環境の充実】

① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

【学習者用端末利用状況 R6:65. 4%】

② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。

【年次有給休暇10日以上取得 R6:93. 3%】

3 本年度の自己評価結果の総括

○中期目標の達成に向けた年度目標について

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

○年度目標の達成に向けた取組内容について

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。 【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3%】</p> <p>② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。 【学力経年調査 R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 相手の気持ちを考え、思いやりのある学級づくりを進める。</p> <p>指標・ 児童がお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会を設けるために、「いじめ・いのちについて考える日」を年3回実施する。</p>	
<p>取組内容②【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 すすんであいさつができる子どもを育てる。</p> <p>指標・ 代表委員会による「あいさつ運動」を年1回以上実施する。</p>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】
①
②
【取組内容の進捗状況の結果と分析】
①
②
年度末への改善点
【年度目標】
①
②
【取組内容】
①
②

大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 【学力経年調査 R6:3年0.76 4年0.81 5年0.75 6年0.84】 ※0.01を1ポイントとする。 ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。 【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の授業づくりや計算力を高める取り組みを行い、算数科における基礎・基本の力を身につけることができるようとする。	
指標 ・ 算数科の授業づくりについての研修会を年1回以上実施する。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 各学年に応じた家庭学習を進められるように工夫する。	
指標 ・ 各学年に応じた家庭学習を進められるよう、「宿題の取り組み方」についての研修を年1回以上実施する。	
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康安全・運動的行事を充実させ、運動と健康に対する意識を高める。	
指標 ・ 全学年対象の健康安全・運動的行事を年間3回以上行う。 ・ 全学年、「食に関する指導」を年2回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標の達成状況】 ① ②	
【取組内容の進捗状況の結果と分析】 ① ② ③	

年度末への改善点

【年度目標】

- ①
- ②

【取組内容】

- ①
- ②
- ③

大阪市立小林小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く] 【学習者用端末利用状況 R6:65.4%】</p> <p>② 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 94%以上にする。 【年次有給休暇 10 日以上取得 R6:93.3%】</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 情報社会の特性を理解し、適正な活動ができるよう指導する。	
指標 • 全学年、情報モラルについての学習を年 1 回以上行う。	
取組内容②【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日（全教職員が 18 時までに退勤する日）や学校閉庁日の設定、学校行事や会議の精選・短縮などにより、働き方改革を推進する。 【R6 学校閉庁日: 夏季休業中 9 日 冬季休業中 4 日】	
指標 • ゆとりの日を月に 4 回設定する。 • 学校閉庁日を夏季・冬季休業日期間に合計 5 日以上設定する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標の達成状況】 ① ②	
【取組内容の進捗状況の結果と分析】 ① ②	
次年度への改善点	
【年度目標】 ① ②	
【取組内容】 ① ②	